

長崎の林業

小曾根星堂書



フクロウのチェーンソーアート(紹介コーナー)

2

目次

- 林政だより 松くい虫による森林被害 2～3
- 特集記事 下中津良里の森保全の会 西山善幸さん 4～5
- 林業普及だより ～先人の偉業を次世代へ（NPO法人小江山林会 6
- 地方だより・県北 小値賀町における松くい虫被害対策の取組について 7
- 地方だより・上五島 資生堂「椿の植林・保全ボランティア活動」 8
- 林業団体情報 第15回森林のめぐみ展示会開催 9
- センターだより 長崎県農林試験研究120年のあゆみ 10
- 紹介コーナー チェーンソーアート・マスター 嶋田克海さん 11
- 「甦る森は語る」～C・W・ニコル・アフアンの森財団レポート～ 12



2019
No.761

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！



この用紙は、日本の森林を育てるために
間伐材を積極的に使用しています。

FREE

ご自由にお持ち下さい。

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。
「長崎県庁」のホームページ「広報」→「県の発行物」からもご覧いただけます。

林政だより

松くい虫による森林被害

はじめに

松くい虫による森林被害は、海岸線の長さが北海道に次ぐ第2位で、海岸沿いにはクロマツを中心とした海岸林があります。このようなマツ林は、防風・防潮・飛砂防止等の生活環境の保全に加え、美しい景観を形成し、観光名所となっている所もあります。

しかし、このマツ林が枯れてしまう被害が近年増加している地域もあり、深刻な問題となっています。

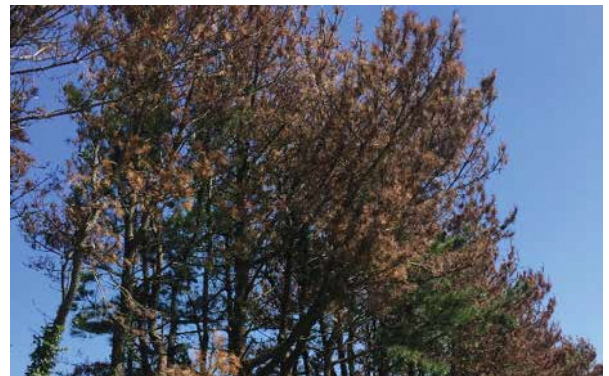
ぶことによって被害が拡大します（図1）。



松くい虫による枯死木（対馬市^{つづぎ}豆岐崎）

マツ枯れとは

梅雨の頃まで青々としていたマツが、夏を越す頃になると真っ赤に枯れる現象をマツ枯れと呼びます。この枯損の原因は「マツ材線虫病」と呼ばれる伝染病です。この病気は、マツノザイセンチュウ（以下、線虫）という体長1mm以下の線虫がマツの中に入り込むことによって、通水障害を引き起こします。この線虫を媒介するのがマツノマダラカミキリ（通称：松くい虫）です。このマツノマダラカミキリが線虫を体内に入れ、他のマツへ運



松くい虫により赤く枯死したマツ林（小値賀町東部）

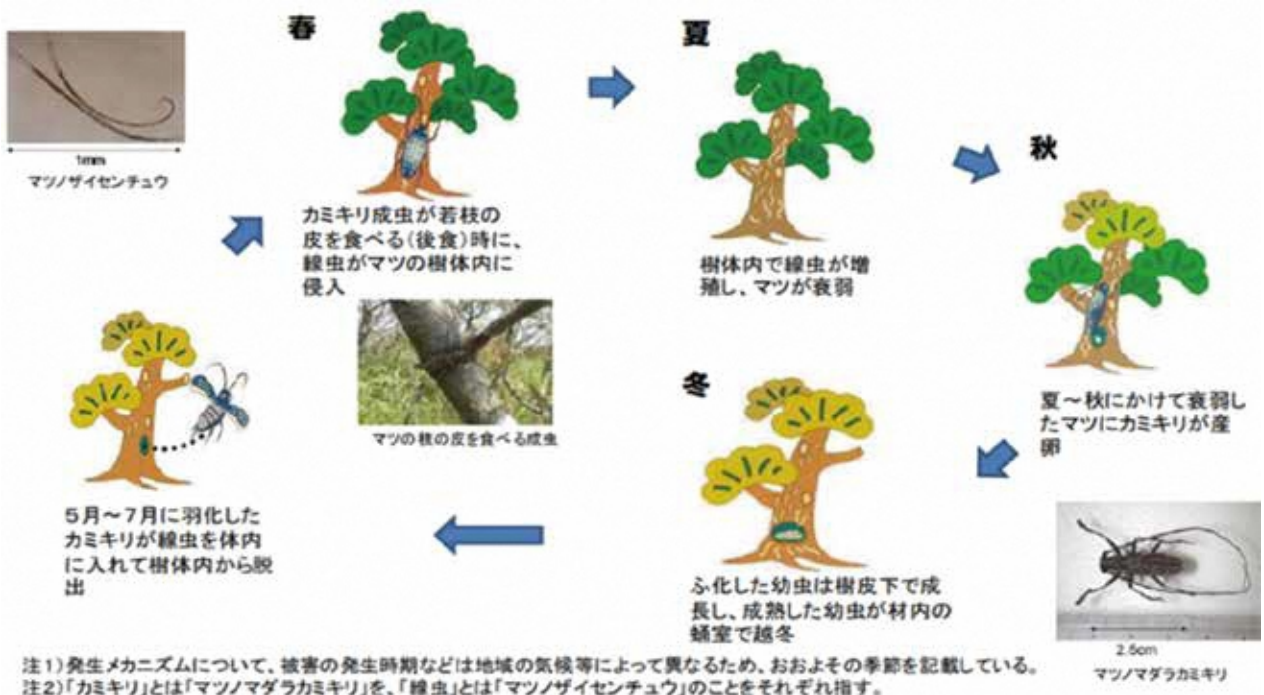


図1. 松くい虫の被害発生メカニズム



地上散布の様子（長崎市）

松くい虫被害と対策

長崎県の松くい虫被害は、平成19年度をピークに年々減少傾向にありました。しかし、平成29年度は小値賀町及び佐世保市宇久町で被害が爆発的に増加し、今後も被害が拡大する可能性があります。その他にも県内各地で松くい虫によるマツ枯れが発生しており、公益的機能の高いマツ林とその周辺のマツ林を対象として、以下のような様々な対策を行っています。

○地上散布

地上から動力噴霧器を利用して、マツの樹冠部に薬剤を散布し、羽化したマツノマダラカミキリを死滅させます。

○空中散布

航空機（ヘリコプター）を利用して空中から薬剤を散布する方法で、地形的に地上散布が困難な場合に実施します。地上散布と同様に、マツノマダラカミキリを死滅させ、被害のまん延を防ぎます。

○樹幹注入

マツに直接薬剤を注入し、健全木に侵入してくる線虫の増殖を抑制、死滅させることによってマツ枯れを防ぎます。地上散布では十分に薬剤をかけられない大きなマツに対して単木的に行います。

○伐倒駆除

被害を受けた枯損木を伐倒した上で、薬剤によるくん蒸や焼却、粉碎等を行うことによって、被害木の中にあるマツノマダラカミキリの幼虫を駆除し、被害拡大を防ぎます。

新たな被害が見られる地域だけでなく、被害が軽微になった地域においても気象要因等によっては再び激しい被害を受けるおそれもあるため、引き続き被害状況に即応した的確な対策を推進していきます。

（森林整備室 森林整備班）

【特集記事】

下中津良里の森保全の会 代表 西山 善幸さん



平戸市下中津良町にお住まいの西山善幸さんをお訪ねしました。西山さんは森林・山村多面的機能発揮対策（以下事業と称します）を地元で円滑に実施できるように奮闘しておられます。写真は下中津良里の森保全の会の集合写真です。

西山善幸さんのプロフィール

西山善幸さんは、昭和26年生まれの67歳です。お仕事は、ニンニクや米を生産する農家です。



事業を始めることとなった経緯

戦後間もなく、地域全員参加のもと森林組合を設立し、豊かな生活を夢見てスギ、ヒノキの植林活動を実施しました。国・県等の補助事業に支えられながら実施

し、木材を収穫できる時期になっても、収益がほとんど得られず、将来を疑問視するようになりました。その間組合員の高齢化も重なり、組合員数が3分の1まで減少してしまいました。

その後残った組合員で活動を続けてきましたが、10年ほど前から間伐や枝打ちの補助事業が対象外となり、組合の活動が思うようにできなくなりました。

このような厳しい状況の中、長崎森林・山村対策協議会から森林・山村多面的機能発揮対策の実施について提案を受け、平成28年度から事業に取り組んでいます。

事業に取り組んで良かったこと

平成28年度から事業を始めて3年目ですが、地元では以下のような変化がありました。

- 組合の財産である山林の現況や境界を全員で共有する絶好の機会となった。
 - お年寄りから若者まで多くの組合員の参加を得て、地区の人々が交流できるきっかけづくりができた。
 - 事業の実施を通じて、神社や観音堂など地域の憩いの場の手入れが進んだ。
 - 事業の実施に伴い、下中津良森林保全の会の会費を徴収することとなり、森林の経営について自由に意見を交換する場ができた。
- など森林整備を通じて地域を再生するためのうれしい兆候が見られるようになりました。



地域の憩いの場の手入れ後（神社）

しかし、この事業の継続について、西山さんは当初不安だったとおっしゃいます。

事業を実施する1年目は、役員主導で活動を進め、地域の皆さんを引っ張り、当初の事業量をほぼ達成することができましたが、2年目以降の事業継続について、地区の皆さんに快諾してもらえるか疑心暗鬼の思いだったそうです。

1年目の活動終了後、反省会の中で、参加者全員から、久しぶりに山に行き、皆と楽しく活動ができてよかった。さらに何がしかの金銭収入も得ることができた。来年もぜひ継続して実施してほしいと前向きな発言をいただき、2年目3年目へと進むことができたそうです。

この事業は、地元住民の理解と協力なしには成り立たないと西山さんは力説されます。

将来の森林管理を憂う

下中津良町でも少子高齢化が進行しています。今後住民のさらなる高齢化により、活動参加者の確保、事業の維持継続がますます難しくなっていくことを西山さんは危惧しています。

西山さんの試算によれば、20年後には15名、30年後には10名と山の手入れに必要な地元の労働力は、先細りになるばかりです。

戦後まもなく、全員が協力して植林を推進し、目まぐるしい時代の移り変わりの中、間伐や枝打ち等の保育を実施し、ようやく木材を収穫できる時代が到来したと思ったら、木材価格が下落し有利に処分できる状況でないなど、将来を展望できず暗澹たる思いです。これまで苦労して育ててきた森林をどのような方法で引き継いでいけば良いのでしょうか。不安が募るばかりです。



森林整備の様子

取材を終えて

日本全体で少子高齢化が進行しています。自分たちの森林の境界を次世代に引き継ぐことができなければ、森林管理が粗放化します。

森林・山村多面的機能発揮対策を有効に活用して、地域が再生されることを願うばかりです。

(NPO 法人地域循環研究所)

ー 林業普及だより ー

～先人の偉業を次世代へ(NPO法人小江山林会)～

県央振興局管内の民有林で最も植林の歴史が古く、明治中期から営々と人工林造成に取り組み、現在では経済性と公益的機能の高い400haに及ぶ人工林を営んでいるNPO法人小江山林会への経営指導について報告します。

歴史ある先賢遺徳祭

小江山林会は、今から約120年前の明治中期から、大正14年までに、当時全国的に稀であった植林事業による自主財源の確保を目指し、献身的な努力によって250haの広大な植林を完成させました。

その後、先人から受け継いだ森林を営々と管理されるとともに、新たな植林事業によって、現在では経済性と公益的機能の高い400haにも及ぶ森林を管理されており、その先人たちの偉業を称えるため毎年、先賢遺徳祭が盛大に開催されています。

持続的な森林経営に向けての普及活動

平成19年創設の「ながさき森林環境税」を契機に、小江地区県産材生産団地に指定し、計画的な間伐と路網整備の推進の普及に取り組みました。このことにより現在では、成長量の範囲内で、搬出間伐が定期的に行われ、安定した収入の確保へと繋がっています。この背景には、持続性を大切にしながら経済性と公益的機能の発揮を両立させる森づくりを基本方針とした小江山林会の強い決意があったからだと思われれます。

200年保存林の管理

小江山林会には、約5haの200年保存林が管理されています。この保存林は、現在110年生のスギで、樹高は最大32m、胸高直径80cmに及びます。この大径木は、昭和21年の皆伐回避によって保存され、現在までに付加価値の高い4面無節材の生産を目標に手入れが行われてきました。

しかし、経年変化と共に優勢木の成長が劣性木によって阻害されていることから、新たな発想による施業技術の導入が求められていました。そこで、伊勢神宮の宮域林で行われている、優勢木(残す木)を決め、その成長を妨害している木を伐採する「将来木施業」を提案しました。

百間は一見にしかず

提案した「将来木施業」への理解を深めてもらうため、その施業が実践されている伊勢神宮の宮域林の調査、そして先人が目標とした吉野スギの大径材生産(多間伐施業)の施業方法について、現地調査を提案しました。

その結果、9月に会長及び理事ら10名と共に現地調査を行い、宮域林の施業体系・目標林型、そして吉野スギの育林技術の歴史、吸い込まれそうな250年生の森林を目の当たりにして、これから目指すべき森づくりについてイメージを共有することが出来ました。



宮域林 現地調査

新たな木材の販売を模索

小江山林会では、200年保存林の育成によって生じる大径材の用途として住宅の内装材や幼児用の椅子など、地元の工務店と連携した新たな販売チェーンを模索し有利な販売に取り組んでいます。

今後も地域の独自性によって発展している小江山林会へ、様々なニーズに合わせて支援していきたいと考えています。

(県央振興局 林業課)

ー地方だよりー

小値賀町における松くい虫被害対策の取組について



10月29日熊本県で開催された「森林・林業の技術交流発表大会」において、小値賀町・小値賀町担い手公社・県北振興局が共同発表した「小値賀町における松くい虫被害対策の取組について」が優秀賞受賞となりましたので、内容と共にご紹介します。

大規模な松くい虫被害対策の実施

小値賀町では、松林が防風・防潮及び自然環境保全や景観形成等、町の産業と住民生活に重要な役割を果たしており、また町を象徴する木として大切に保護されています。

しかし、平成29年8月以降にマツ材線虫病によって、町内広域でマツが大規模に枯れる被害が発生しました。そのため、町、町内駆除業者、長崎県が協力して効果的な駆除、予防方法を検討し、これまでに無い大規模な駆除を実現しました。

(1) ドローンによる被害区域の把握

被害木の本数調査を早急を実施するため、目視できない奥地や急傾斜地の被害状況を安全に調査し、事業実施の基礎データとしました。

(2) 作業区域の検討と駆除の実施

地形等の作業困難度で町内外の駆除業者をどの区域で作業してもらうか振り分けました。

結果、マツノマダラカミキリの発生時期までに駆除を完了させ、被害区域拡大防止を図ることができました。

(3) 適期予防のためにマツノマダラカミキリの発生消長を調査

駆除だけでなく予防のためにも県の指導を受け、町と公社が協力して島内でのマツノマダラカミキリ発生消長調査を実施し、より効果的な適期防除が実施可能となりました。



写真：ドローンによる被害区域の把握

今後の取り組み

このように全町をあげて、関係機関と協力し、駆除体制の整備のもと駆除作業に取り組んでおり、今後は樹種転換、間伐、更新、松葉かき等を検討するなど、マツ林保全を実際に取り組んでいる学識経験者等に協力を仰ぎ、町における将来のマツ林の在り方や保全に関する総合対策計画を策定しマツ林の保護に努めることとなっています。

(県北振興局林業課)

ー地方だよりー

新上五島町のできごと 資生堂「椿の植林・保全ボランティア活動」



「大きく育て！」願いながら植樹



椿のそばに記念の木札

五島列島で生産されている椿油は、資生堂から販売されているヘアケア製品「TSUBAKI」の原料としても使われています。そのご縁もあって、年に1回、資生堂の社員の方々が下五島、上五島でツバキの植樹などのボランティア活動を行っています。7回目の活動となる今年度は、平成30年12月8日に新上五島町有川郷の鯨見山展望台で開催されました。

撮り、同僚に報告するのだと喜んでいられる方もおられ、継続して行われてきたこの活動の意義を感じることができました。

草刈後、「上五島やぶ椿会」の方々の指導の下、ツバキの植樹を行いました。鍬での穴掘りや、ハンマーを使っての防風ネット設置など、慣れない作業で日ごろ使わない筋肉を使いながら、85本の植栽を終えました。昨年と同じように、植えたツバキのそばには記念に木札を設置しました。今回の活動が、今後も引き継がれていくと思うと、次回以降の活動が楽しみです。

(五島振興局林務課)



時折雨やあられが降る寒空でしたが、参加した約30名の方々はまず、過去にツバキを植樹した場所の草刈を行いました。参加者の中には、以前この活動に参加した同僚が植えたツバキと記念の木札を見つけてそれを写真に



-林業団体情報-

県内の林業研究グループが豊かな森の恵みを届けます！
第15回森林のめぐみ展示会開催

はじめに

長崎県内には11の林業研究グループがあり、林業技術の向上・林業経営の発展をめざして間伐などの林業施業やしいたけ、ハランなど地域の特産林産物などについて研究や集団での実践活動を行うために活動しています

また、1年に1度開催される、九州地区林研発表大会に参加し、取り組んだ研究の成果について発表しています。こうした活動は、県民の方々に森林の大切さや、森林の果たす役割を広く理解していただくための活動であるとともに、林業が業として成り立っていくためにどうすべきかを研究し、公表することは大きな使命だと感じています。

林業研究グループの活動

林業研究グループでは、ほかの地域のグループの人達や都市部の皆さまとの交流を深めるために、1年に1回、長崎市浜町ベルナード観光通りにおいて「森林(もり)のめぐみ展示会」を開催しています。

この展示会では、日頃、グループで研究、活動をされ、作られている農林産物や木工製品、クラフト等を持ち寄られます。

○主な展示品

ヒノキのまな板、木製飾り棚、木製ベンチ、ストラップ、テーブル、イス、ハラン、椎茸(生、乾燥)、自然に関する野草、椿木工品、椿苗、竹トンボ、竹細工、生け花の材料



その他、会場には地球温暖化を防ぐなどの森林の働きを説明したパネルも展示します。

こういった展示会をはじめ、自主的な活動や研究を行っていく中で得られた成果をパンフレットにし、林業の普及・啓発、PRに繋がればと願っています。県民の皆さまの目に入りやすい場所に設置しておりますので、ぜひご覧ください。

名 称	第15回森林のめぐみ展示会
日 時	平成31年3月9日(土) 10時30分～15時30分
場 所	長崎市浜町ベルナード観光通り
問合せ	長崎県林業研究グループ 連絡協議会 諫早市貝津町1122-6(林業会館) TEL 0957-25-0177

【会場案内図】



-センターだより-

長崎県農林業試験研究120年のあゆみ ～研究成果報告会開催（平成31年1月10日）～

はじめに

長崎県農林技術開発センターは、明治31年（1898年）長崎県立農事試験場として長崎市中川町に創設されて以来、大正9年（1920年）に諫早市永昌町に移転、そして昭和36年（1961年）に現在の諫早市貝津町に再度移転して、今年120年目の節目に当たります。

120周年を記念して、様々なイベントが企画、実施されています。

研究成果報告会

その一環として、1月10日（木）に、研究成果報告会が諫早市多良見町のたらみ図書館で行われました。

まずはじめに、荒木所長により開会の挨拶と、農林業試験研究120年のあゆみと展望について講演がありました。明治31年に長崎県立農事試験場が設置されてから、現在に至るまでの変遷を写真を交えて説明し、現在までの試験研究の流れや、今後の重点テーマ、バイオ等々の育種技術やICT、AIを活用したスマート農業など、これからの農林試験研究についての話がありました。



荒木所長による開会の挨拶

その後、『近年の農林業の発展に寄与した研究とその普及』と題し、イチゴ「ゆめのか」とビワ混合発酵茶について研究員と普及、販売等のそれぞれの立場から発表がありました。

また、近年の研究成果として、7つの研究について発表があり、森林研究部門からは古村専門研究員が、『島の宝「五島ツバキ」の振興に向けた取り組み』について発表を行いました。

すべての発表が終了した後、質疑応答の時間が設けられ、参加者から様々な質問があがり、会場は盛り上がっていました。



古村専門研究員による説明

さらにポスターセッションでは、各部門より44枚のポスターが掲示されました。

会場には、県や関係機関をはじめ133名が参加され、長崎県の農林業試験研究120年のあゆみを再確認するとともに、日ごろの試験研究についても知っていただく良い機会となりました。

（農林技術開発センター）

紹介コーナー チェーンソーアート・マスター 嶋田 克海さん(諫早市森山町)



チェーンソーを使用した木彫アートで有名な嶋田克海さん(68歳)をお訪ねしました。氏は諫早市森山町で、「そば処細麦さくらや」を経営しておられます。

嶋田さんはチェーンソーアートで、これまで500以上の作品を制作してこられたそうですが、氏の創作意欲は、旺盛な好奇心と卓越した行動力が基になっているようです。



長崎県産材へのこだわり

作品の大きな特徴は、アートに使用する材料が全て長崎県産材であることです。材料は雲仙市千々石町にある不二山木材(株)から購入しているとのことでした。この会社では、木材市場と違って個人にも木材を販売しており、県内のどこの山で生産されたものであるか履歴を知ることができるそうです。



SAKURA ART チェーンソーアート1日体験コースのご案内

嶋田さんは、チェーンソーアートの1日体験コースを開いています。料金15,000円でフクロウを製作します。また、出来上がった作品は持ち帰れます。興味がある方は是非体験されてみてはいかがでしょうか。お申込み・お問い合わせはチェーンソーアート長崎 嶋田までご連絡下さい。

チェーンソーアート 長崎
〒854-0206
諫早市森山町唐比北 940-1
TEL : 090-5473-8300

伊万里木材市況

【ヒノキ】

平成31年1月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4 m	16~18	直	17,600	少ない	多い	多い
	16~18	小曲り	16,200	少ない	多い	多い
	20~22	直	17,400	少ない	多い	多い
	20~22	小曲り	15,700	少ない	多い	多い

【スギ】

平成31年1月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4 m	18~22	直	13,900	少ない	多い	多い
	18~22	小曲り	12,000	少ない	多い	多い
	24~26	直	13,600	少ない	多い	多い
	24~26	小曲り	12,000	少ない	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

講演会『甦る森は語る』 ～C・W・ニコル・アフアの森財団レポート～

平成31年1月20日、大村市シーハット大村（大村市幸町）で、『甦る森は語る』と題し、長野県上水内郡信濃町にあるC.W.ニコル・アフアの森財団（以降、財団と表記します）で福島キッズ森もりプロジェクトを担当する河西 恒（かさい ひさし）氏を招いての講演会が開催されました。主催は、大村市で活動する森林ボランティア団体「大村里山村づくり委員会」。長崎県教育委員会、長崎県森林ボランティア支援センター他の後援、ふるさとの森づくり事業による補助を受けての開催でした。

河西氏とアフアの森

C.W.ニコル氏とアフアの森については、この紙面をご覧になっている方々に改めて説明するまでもない事でしょう。河西氏は、ニコル氏の森づくりが始まってから16年後の2002年（平成14年）に財団が設立された当初から、現場でのプログラムマネジメントを担ってこられた方です。財団立ち上げ後まもなくスタートした「心の森プロジェクト」「5センスプロジェクト」を軌道に乗せたのち、フリーランスとなり、現在はその立場で財団とイオングループ主宰の「福島キッズもり森プロジェクト」を任される一方、森林セラピー基地として知られる信濃町において、「癒しの森事業」のコンシェルジュとして運営の一翼を担いつつ、自身も森林メディカルトレーナーとして現場に立つ、事業の重要なキーパーソンでもあります。

講演の概要

講演は「私の見た森、出会った人～アフアの森と信濃町の森～」と題し、アフアの森と信濃町を舞台とした話の二部構成で行われました。

アフアの森を舞台とした話では、財団が「森の再生」から「心の再生」へとその取り組みをさらに一歩進めようと立ち上げられた事業「心の森プロジェクト」と「5センスプロジェクト」について詳しく語られました。盲学校や特別支援学校、児童養護施設に通う子供たちをアフアの



森に招いての森林体験では、氏の言う「豊かな森と森の価値を信じているスタッフ」の織り成す森林体験プログラムの濃密さは目を見張るものがあり、中でも一人の男の子が描いた絵は、聴衆の感嘆を誘っていました。

一方、信濃町の森を舞台とした「癒しの森事業」の話では、大人にも子供にも広がりつつある「自然欠乏症候群」についてまず報告がなされ、都市部の企業と連携した取り組みにより、離職率、うつ発症率において顕著な成果をあげていることが報告されました。様々なエビデンスも説得力がありましたが、記者がもっとも説得力を感じた言葉は「五感さえ開けば森が何とかしてくれる」という、現場の実践者ならではの言葉でした。

90分の講演中5分ほどの休憩を挟んだだけの長丁場でしたが、60名あまりの聴衆を最後まで惹き付け続ける充実した内容でした。

（NPO 法人地域循環研究所）

長崎の林業 2月号 第761号
編集・発行 長崎県林政課
住所：長崎県長崎市尾上町3番1号
電話：095-895-2988
ファクシミリ：095-895-2596
メールアドレス：
s07090@pref.nagasaki.lg.jp